

⑨ 瀬木地区コース

町の代表的な仏閣である玉林院を通るコースで中山道上松宿の面影を楽しめる。
国道19号の下を潜っていくのぼり坂は少し急だが、足腰の強化にもつながる。

- 距離 約1.4km
- 時間 約21分
- 消費カロリー 約70kcal
- ≡ チョコレート2粒 10g 60kcal



十王堂の石仏群
ここにかつて十王堂がありました。慶応2年(1866)の洪水で流されてしまいましたが、そのとき一緒に流され、下流で発見された石仏を集めて祀ったのがこの石仏群です。



のぼり坂



小脇橋



復興橋



江戸時代の中山道上松宿にタイムスリップして歩いてみよう

若宮八幡神宮



玉林院
臨済宗妙心派の寺院で木曾家16代目木曾義元の二男玉林が天正年間(1573~1593年)に創建。明治27年(1894)の火災により本堂や庫裏などが焼失しましたが、昭和38年(1963)に再建。玉林院山門は江戸時代中期に建てられた鐘楼門建築の遺構としても貴重な事から昭和59年(1984)に上松町指定有形文化財に指定。また、境内にある4本の黒松(往時は5本あった)は推定樹齢270年の古木で昭和59年(1984)に上松町指定天然記念物に指定されています。

上松宿
上松宿は中山道69次中38番目に位置する宿場町です。「木曾の棧」、「寝覚の床(国指定名勝)」、「小野の滝」と木曾八景に数えられる名勝が隣接する宿場町で江戸時代は木曾檜を中心とした木材の産出拠点として発展しました。尾張藩では上松材木役所を上松宿に設け藩直轄で業務を行うことで利益を独占するなど重要視されました。天保14年(1843)に編纂された「中山道宿村大概帳」によると上松宿は本陣1軒、脇本陣1軒、旅籠35軒、人口2482人で構成され上町、本町、仲町、下町の4町で区画されていたそうです。昭和25年(1950)の大火災に見舞われ上松宿の多くの建物が焼失しましたが上町だけが焼失をまぬがれ、上町の鎮守である八幡宮本殿と玉林院の鐘楼門が上松町指定文化財に指定されるなど当時の宿場町の雰囲気を残しています。



水分もっていこう!



50m